



濁川中だより

〒950-3134

新潟市北区新崎 5437 番地

Tel 025-259-2150

学校の様子をHPで更新しています。

<https://blog.city-niigata.ed.jp/nigorikawa/>

式辞

校長 武田 統理

ただ今、卒業証書を手にした53名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠にありがとうございます。心よりお祝いを申し上げます。また、これまでの本校の教育活動にご理解をいただき支えてくださったことに感謝申し上げます。

また、本日はご多用のところ、学校運営協議会会長 様、同窓会長 様、濁川小学校長 様、PTA会長 様をはじめ、多くのご来賓の方々からご臨席を賜り、卒業生の門出を祝していただいたことに深く感謝申し上げます。これまで、学校の教育活動に対し多大なご支援、そしてご鞭撻をいただいたことに、重ねて心より御礼を申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、まずは心から「ありがとう」と伝えたい。

これは、今までの学校の当たり前を一緒に変えてくれたことへの感謝です。今までの濁川中学校の歴史に一石を投じ、何が大切かを考え、練り直してきたこの一年は、中学校の新たな歴史を開く1ページとなり、学校創立八十年を迎える来年度以降につながる、大きな一歩となりました。

体育祭。長年、夏休み直後に行われてきました。それが当たり前、でした。しかし近年の夏の猛暑を考えたとき、本当にこの時期でよいのか、安全は守られているのか、結果、熱中症対策という明確な目的のもと開催時期を春に変更しました。

それだけではありません。みなさんは体育祭の目的そのものにも問いを向けてくれました。団結力を競うことが目的なのか、勝ち負けだけが価値なのか。そして皆さんは「仲間作り」という新しい目的を掲げました。競い合うだけでなく、お互いを知り、認め合い、つながる場へと変えたのです。その成果は、今日も会場に飾られているパネルと最後の応援団長の言葉、そしてみんなの行動が示してくれました。

合唱祭も同じです。長く続いてきた「賞」を皆さんの代で完全に無くしました。

「なぜ賞があるのか」、「誰のための賞なのか」、その問いからたどり着いたゴールはこの数年、濁川中学校で取り組んできた、共に創る、共創という言葉でした。合唱祭を盛り上げるという表面的な目的だけならば、賞があった方が効果はあります。しかし、賞を目指して競い合うのではなく、互いの声を重ねることに価値を置く、比べるのではなく響き合うことを目指す。あの日、会場に響き渡った歌声はこの三年生らしい、温かく柔らかな空気が感じられる、心地よいものでした。

皆さんが示した、当たり前は変えられる、目的が明確であれば、伝統も進化できる、問いをもち続ければ、学校はよりよい場所になる。この経験を大きな自信にしてください。

私たちは日々、多くの当たり前で生きています。朝起きて学校に来ること、授業を受けること、友達と過ごすこと、また、世の中にはルールや習慣、常識というものがあります。

しかし、歴史を振り返れば、社会を前に進めてきたのは「それは本当にそうなのか」と問い直した人たちでした。

「女性は大学に行かなくてもものよい」という当時のあたり前を疑い、行動を起こした人がいました。

「戦争は仕方ない」というあたり前を疑い、言葉にのせて命の尊さを訴えた人がいました。

「環境を壊しても発展が優先だ」というあたり前に、問いを投げかけた人もいます。

その一人一人の問いが、社会を少しずつ変えてきたのです。

社会に出れば「今までこうだから」「前例がないから」「みんながそうしているから」という言葉に出会うでしょう。

その時は、体育祭を変え、合唱祭を変えた自分たちを思い出してください。皆さんは、学校という場ではあるけれど、そこでの社会を動かしたという大きな経験をもっています。

大切なのは、これからも問いをもち続けることです。

そして変えるときは必ず目的を確かめることです。

「それは誰のためなのか」

「本当に守るべきものは何か」

「よりよい形はないのか」

当たり前を疑うと、反抗的、批判的、ととられることがあります。しかし目的を見失わなければ、その問いは単なる批判ではなく、新たな価値の創造につながります。対立ではなく、前進になります。

問い続けることは、簡単ではありません。

時には迷い、不安になり、立ち止まることもあるでしょう。

しかし、問いをもつ人は流されません。

問いをもつ人は考えます。

そして、考える人が社会を動かします。

どうか中学校での経験を自信にして、問いをもつことを恐れなideてください。そして、これからも自分の頭で考え、仲間とともに語り合い、目的を確かめながら、一歩ずつ社会を変えていってください。

卒業生のみなさんの前途に、希望と挑戦の道が広がっていることを心から願い、式辞といたします。

送辞

生徒会副会長

弥生三月、桃の節句の春の日差しに包まれる、この佳き日。

三年生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

さまざまな新しいことに挑戦される姿を通して、私たちに多くの学びを与えてくださった先輩方。私は、そんな先輩方を誇りに思い、心から尊敬しています。

体育祭は今年度、大きく変わりました。開催日は秋から五月開催へと変わり、修学旅行も重なる中での準備期間となりました。これまで三部門に分かれていた賞が一つにまとめられ、さらに、全校で一つのパネルを制作するという新しい形に挑戦しました。また、勝敗を目的とするのではなく、行事を通してクラスの絆を深め、よりよいクラスを創り上げていくことをねらいとする体育祭になりました。

多くの変化がある中でも、先輩方は決して戸惑うことなく、常に前向きな姿勢で私たちを引っ張ってくださいました。一人一人が自分の役割を考え、仲間と声を掛け合いながら取り組む姿から、最高学年としての強い責任感を感じました。

その結果、クラスごとのまとまりが全校へと広がり、全校が思いを重ねながら創り上げていく～共に創る～「共創」の体育祭となりました。このような体育祭を実現できたのは、先輩方の活躍があったからこそだと思います。

合唱祭でも、先輩方は「共創」の姿を示してくださいました。今年は賞が完全になくなり、成果を競うのではなく、合唱を通してクラスを成長させていく合唱祭へと変わりました。先輩方は、一人一人の声と向き合い、互いの思いを受け止めながら、一つの合唱をより良いものにしようと努力を重ねていました。その積み重ねによって生まれた合唱は、一人一人の思いが重なり合い、クラスが一つに成長していく「共創」の合唱だったと思います。ここでも先輩方は、「共創」の素晴らしさを、私たちに教えてくださいました。

生徒会活動では、先輩方から本当に多くのことを学ばせていただきました。学校全体を見渡し、責任をもって行動する姿、そして仲間を思い、冷静に判断する姿勢に、何度も導いていただきました。

行事の準備や日々の活動の中で、迷うことや不安に感じることもありましたが、先輩方はいつも私たちに進むべき方向を示してくださいました。その背中はとても頼もしく、私たちにとって大きな支えでした。

三年生の皆さんは、いつも学校の中心となり、私たち在校生に進むべき道を示してくださいました。その姿は、私たちの憧れであり、目標です。そんな先輩方が卒業されることは本当に寂しいですが、先輩方が築いてくださった「共創」の文化を絶やさぬよう、私たちが責任をもって歩んでいきます。

新たな環境で戸惑うことがあっても、ここで培った経験に自信をもって、前へ進んでください。在校生一同、心から応援しています。

最後に、今まで本当にありがとうございました。

在校生一同、卒業生の皆さんの輝かしい未来を、心から願っています。

答辞 卒業生代表

やわらかな日差しが心地よく感じられる季節となりました。本日は私たち卒業生のために心温まる卒業式を挙げていただき、ありがとうございました。また、お忙しい中お集まりいただいたご来賓・保護者の皆様、卒業生を代表して心より感謝申し上げます。

三年前、大きな期待と不安を胸に、濁川中学校の門をくぐった日のことを今でもはっきりと覚えています。小学校とは違う新しい環境に、戸惑いを感じたこともありました。教科が増え、授業も難しくなり、初めての定期テストでは範囲の広さに驚き、中学校の大変さを実感しました。二年生に進級し、思い出に残っている行事は合唱祭です。この年から、優秀賞・最優秀賞がなくなり、競い合う「競争」から、共に創り上げる「共創」に変わりました。この合唱祭を通して私たちは、勝ち負けではなく、目標に向かって仲間と協力することの楽しさや大切さを学びました。会場に響いた美しい歌声は、今でも私たちの心に深く残っています。この時、先輩たちから引き継いだ「共創」の精神が、今の私たちにつながっています。

そして一年前、一人一人の前進・成長を大きな力にしていこうと、生徒会スローガン「progress～今に繋げ、今を超える」を掲げ、私たちは中学校生活最後の年をスタートしました。

まず私たちが一番楽しみにしていた行事、修学旅行がやってきました。京都班別自主研修では、普段あまり話す機会がなかった友達とも自然に会話が生まれ、互いの新たな一面を知ることができました。大阪では、道頓堀のにぎやかな街並みを歩き、友達と笑顔の絶えない時間を過ごしました。そして、今年度だからこその体験は、大阪・関西万博です。大屋根リングを歩き、多くの外国人観光客に囲まれ、最先端の技術や世界各国の文化、そして「未来」をテーマにした展示の数々に触れました。これからの社会が直面する課題に対して、世界が手を繋ぎ取り組んでいく姿を感じ取ることができました。この修学旅行を通して得た学びや気づき、そして成長は、これからの進路や生き方を考える上で、私たちの大きな支えになるでしょう。

新学年が始まって間もない五月開催の体育祭は、「仲間づくり」がテーマとなりました。「飛翔～羽ばたけ濁中生の翼～」のスローガンのもと、短い準備期間の中、締め切りに追われながら考えた応援活動や、試行錯誤の競技運営計画は本当に大変でしたが、たくさん苦勞した分、私たちの絆を強くしたような気がします。当日、全力で競技に取り組み、チーム一丸となって応援する姿、甚句 LOVE による地域の方々との新崎甚句、そして解団式後、全校生徒で組んだ円陣は、みんなの心が一つとなり、達成感を味わう最高のものとなりました。新しい体育祭での成長は、私たちが大きく羽ばたくための自信となりました。

シン・ウェルカムでは、「濁川の未来を考えよう」というテーマで、地域と繋がり、地域のために何ができるかを考えました。私たち三年生は6つの班にわかれて、濁川の魅力を発信するプロモーション動画を作成しました。校歌に込められた想い、新崎諏訪神社と神楽の歴史、地域に貢献しているの方々や企業へのインタビュー、地域イベントのボランティア活動など、地域の方々と直接関わる貴重な体験ができました。多くの方々からご協力いただき、本当にありがとうございました。私たち中学生も地域の一員として貢献できることを実感した取り組みとなりました。

いじめ見逃しゼロ運動や合唱祭、レッツジャンプ、部活動など、様々な行事や生徒会活動はもちろん、日々の学校生活において私たち三年生を支え、盛り上げてくれた一、二年生に、心から感謝します。これからは皆さんが学校の中心となります。一人一人が自分の役割に責任をもち、仲間を思いやる心を大切にしながら、さらに大きく成長し、素晴らしい濁川中学校を築いていってください。応援しています。

これまで私たちを温かく見守ってくださった地域の皆様、生徒一人一人に真剣に向き合い、導いてくださった先生方、本当にありがとうございました。そして、どんな時も一番近くで私たちを支えてくれた保護者の皆様、毎日の「いってらっしゃい」や「おかえり」、進路や勉強で悩んでいるときにかけてくれた言葉、その全てが私たちの力となりました。素直になれず、反発してしまったこともありました。それでも変わらず見守り、信じ続けてくれたことに心から感謝しています。これからも迷い立ち止まることあると思いますが、その時はまた温かい力を借りながら、一歩ずつ前に進んでいきたいと思えます。

三年生のみんな、楽しいことばかりではなく、ぶつかり合ったこと、思い通りにいかなかったこともありました。それでも今日まで同じ時間を過ごし、笑い、悩み、支え合って、ここまで来ることができました。その全てが、今ではかけがえのない宝物です。最高の仲間と出会い、共に卒業できることを誇りに思います。今まで本当にありがとう。

最後になりますが、私たち卒業生は、これまでの成長を礎に、progress、新しい道へと前進して行くことをここに誓い、答辞といたします



生徒会で企画した感謝週間では、多様な方法で感謝を表しました。その思いを受けて、卒業生からも感謝が伝えられました。

